

羅針盤



2017年12月20日(水) 第31号

＝ 12月のことば ＝

持てる力を自分の夢に注ぎ込みなさい。
そうすれば、自分自身から生み出されるもの
の大きさに驚くだろう。

(ウィリアム・ジェームズ
(アメリカの哲学者・心理学者))

新しい年を迎える前に見つめたいこと

今日で課外も終わり、ようやく冬休みに入るという気分だろうか。そして10日余りで新年を迎えることになる。4月からの9か月間は短かっただろうか、それとも長く感じただろうか。あっという間だった、と感じている生徒諸君が多いのではないだろうか。短かっ다고感じるか、長かっ다고感じるかは人により感じ方は様々かもしれない。では質問を変えよう。この9か月間は、君たちにとって充実していただろうか。何か発見はあっただろうか。そして、この9か月間で、君たちの中に成長と呼べる変化はあっただろうか。この9か月を振り返り、総括し、次につなげてほしいと思う。

今から2018年3月までの期間は、2学年に向けた準備期間と言えるだろう。卒業時に、どこに向かって飛び立っていくのか目標を定め、そのために必要な準備を2年次にはしなければならない。そのため学年では、冬休みの課題として『学問・進路研究』を課している。しっかりと取り組んでほしい。目標を定めたら、それを学習を中心に据えた高校生活を送るためのエネルギーにしてほしい。

「進路目標が定まらない」→「やる気が出ない」→「勉強しない」→「成績が伸びない」という負のスパイラルは絶対に避けなければいけない。目標が決まらない人ほど勉強を頑張ってもらいたいと思う。どんな目標を設定することになるにしても、そこから勉強を始めたのでは間に合わないだろう。悩みながら走り、走りながら考えてもらいたい。

12~1月	曜日	行事等	朝学習
20日	水	冬季課外(最終日)	
本格的に冬休み! ~ お正月			
1月5日	金	全校集会・課題テスト(国数英) ※課題・プログレス提出	課題 確認
6日	土		
7日	日		
8日	月		
9日	火	(40分授業日)	英語
10日	水		国語
11日	木		総合
12日	金		数学
13日	土	(センター試験) (週末課題: 国語・英語、)	
14日	日	(センター試験) 数学は通常通り)	
15日	月	※課題・プログレス提出	数学
16日	火		英語
17日	水		国語
18日	木		総合
19日	金	(英検準会場受験)	数学
20日	土	進研模試 (週末課題: 英語)	
21日	日		
22日	月	※課題・プログレス提出	数学

1年の計は元旦にあり、という。自分の目標や計画を、ぜひ文字にして書き、自分の部屋の見えるところに張り出してほしい。自分のやる気を奮い立たせるために。くじけそうになる弱い自分を監視させるためにも。

◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇

13~14日はセンター試験が行われる。17期生も、2年後ほとんどの生徒が受験することになる試験だ。ぜひとも第一希望で現役合格を達成してほしい。そのためには、着実に、そして確実に実力を付けてほしい。1月末は2週連続で全国模試がある。全国レベルで自分の力を図り、必要な対策を講じてほしい。

講ずべき対策は、各教科等から出されている冬休みの課題から。忘れていたものは許されない。

12月25日は授業料の口座振替日です。お手数ですが、振替日の前日までに口座の残高確認をお願いいたします。

せっかくの冬休み。こんなことに取り組もう

来年1月5日(金)には学校が始まりますので、あっという間の冬休みという感じですが、ぜひこんなことに取り組んでほしいものです。

① 自分の将来について考える（何をして自分の人生をつくるか）

学年からの課題として『学問・進路研究』に取り組んでもらいますが、その先に広がる自分の人生について、ぜひ考えてほしい。『16歳のハローワーク』や『保護者講話』で働くということについて考える機会を持ちました。働くことを通じて社会に参画するという事とともに、働くことで自分の生活や人生もつくっていくこととなります。どんな設計図を描きますか？

② 新聞を読もう（社会に目を向け、自分の頭で考える）

木曜日の朝学習は、「総合」の一環として新聞の社説を読んできた。9～10月の「総合」の時間には、興味を持った時事問題について調べて発表し、同級生の発表も聞く機会を持った。冬休み中も、新聞の社説などを読み、様々なことに関心を持ってもらいたい。できれば、同じ問題についての社説などの読み比べもしてほしい。

③ 家族の一員としての役割を果たそう

年末・年始、何かと家の中は忙しいものだ。家にいて勉強だけしていればいいというものではない。部活に明け暮れ、家では何もしないというのも間違っていないか。そうじ、皿洗い、風呂場そうじ…。何でもいい、家族の一員として自分ができることに取り組んでほしい。特に、普段できていない人はなおさらだ。

伝統とは・・・

少し前の話になるが、11月22日(水)に、2学年と合同で「がんばっている大人の話の聞く会」として、立川志の春さんの落語を聞く会を行った。初めて落語を生で見て、その面白さ、日本が生んだ話芸のすばらしさに感動した人も多かっただろう。アメリカの名門大学を卒業し、日本の一流商社に就職した後の転身に、驚嘆した人もいただろう。

落語を聞いた後、次のような質問があったが覚えているだろうか？ 「落語は日本の伝統芸能だと思っていたが、英語落語にも挑戦されている。新しい落語に挑戦する人もいますか？」（表現は不正確ですが、このような趣旨だったと記憶している。写真は、その場面）志の春さんは「落語には、古典落語と新作落語があり、古典を中心にやる人と、新作が中心の人、両方に取り組む人がいて、自分は両方やっている」と回答されたと思います。

あの時、30年位前に県内のテレビでよく流れていたCMを思い出した。ある伝統的な和菓子のCMで、次のような言葉が最後に語られていた。

「伝統とは、常にあるべき姿を求めて変化し続けることです」

新作落語の中には、やがて「古典」になるものも出てくるかもしれない。歌舞伎でもニューヨークで英語上演に挑戦した人もいたし、人気漫画・アニメのワンピースを歌舞伎にしたたりもしている。ジャズと能の舞のコラボもある。

伝統には、守り伝えるという側面もあるが、どの時代にあっても新鮮な感動を与え続けることができたからこそ後世に残ってきたのではないだろうか。それを可能にしたのは、変える勇氣、変わる勇氣だったのではないだろうか。

